

2014年10月定期報告と次月度以降の活動予定

活動日誌

10月	3	日	関東甲信越行政生協関係者交流会
	4	日	きらめく女性フォーラム
	4	日	ねんりんピック4-7日
	6	日	くらし部会
	7	日	食と農をつなげる会
	9	日	栃木放送番組審議会
	9	日	第13回とちぎ食品安全フォーラム
	10	日	消費者グループフォーラム全国実行委員会
	10	日	理事長専務会議
	11	日	エコ森フェア2014
	13	日	地域居住による生活困窮者支援フォーラム
	14	日	福祉センター理事会
	14	日	小山市長訪問事前学習会
	16	日	小山市長訪問
	16	日	労福協幹事会
	18	日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	20	日	県連理事会
	20	日	消費者カレッジ『作新学院大学女子短期大学部』
	21	日	ふれあいお茶会
	21	日	栃木県次期プラン策定懇談会
	23	日	とちぎ食品安全地域フォーラム(佐野)、とちぎ食の安全ネットワーク世話人会
	24	日	宇都宮市長訪問事前学習会
	25	日	とちぎ食育推進大会2014 25-26日
	25	日	とちぎ食と農ふれあいフェア2014 25-26日
	26	日	栃木市協働祭り
	27	日	宇都宮市長訪問
	27	日	第2回『組合員・役職員学習会』
	28	日	とちぎ消費者ネットワーク全体会
	29	日	協同組合交流会実行委員会
11月	6	日	コープしまね30周年 6-7日
	9	日	うつのみや食育フェア
	11	日	県連常務理事会
	12	日	消費者カレッジ『宇都宮大学』
	13	日	栃木放送番組審議会
	14	日	とちぎ食品安全地域フォーラム(県北)
	18	日	ふれあいお茶会
	22	日	よつ葉生協「生協まつり」
	25	日	とちぎ消費者ネットワーク(幹事会)
27	日	消費者カレッジ『栃木県農業大学校』	
12月	1	日	第3回『組合員・役職員学習会』
	2	日	報道代表者会懇談会
	2	日	地連運営委員会・県連推進会議
	3	日	消費者カレッジ『国学院大学栃木短期大学』
	4	日	ろうきん・全労済忘年会
	6	日	ECO テック&ライフとちぎ2014 6-7日
	9	日	県連理事会
	10	日	協同組合交流会
11	日	とちぎ食の安全ネットワーク(全体会)	
15	日	第4回『組合員・役職員学習会』	
1月	5	日	連合新春の集い
	13	日	日本生協連政策討論集会 13-14
	16	日	常務理事会・財政検討委員会
	16	日	賀詞交歓会
	20	日	第5回『組合員・役職員学習会』
	22	日	とちぎ食の安全ネットワーク(世話人会)
	27	日	とちぎ消費者ネットワーク(全体会)
27	日	地連運営委員会・県連推進会議	

県連活動

1. 理事長専務会議の実施

第二回理事長専務会議が10月10日10会員20名参加で実施されました。今年度のテーマは「人材育成」について各会員の取り組みを交流しました。

2. 暮らし部会

10月定例会では、課題進捗を確認し、今後の進め方について協議を行いました。取り組む課題の進捗状況は次のようです。

●(介護保険制度改定に伴う活動経過)「市町訪問活動」

介護保険制度の改定にともない、新しい地域支援事業の計画状況の把握、及び計画促進の要請と生協の資源を使った支援の訴えかけ。

日	課題	取組み内容
8/29	全体学習会	『「介護保険制度の改定に向けた市町村訪問活動について」～新しい地域支援事業～これまでの介護保険精度と何が変わるのか?市町村訪問のポイントについて』 講師：日本生協連福祉事業推進部 山際部長 ⇒参加者は39名で、「分かりやすく説明をしていただき理解が深まった。」との感想多数。
8月 9月	会員取組み 事前集約	訪問を前に、各生協の事業状況やサービス資源を集約し、支援事業に役立つことがないかなど、市町にアピールできるように資料作成の集約を行う。
10/14	小山市訪問 事前学習	小山市の訪問を前に、市の取組み状況について学習会。 講師：事業団 佐藤理事長
10/16	小山市長訪問	市長と30分の懇談、その後高齢生きがい課と懇談し、地域協議会などへの参加要請をした。
10/24	宇都宮市 訪問事前学習	宇都宮市の訪問を前に、市の取組み状況について学習会。 講師：ふれあいコープ 崎谷専務理事
10/27	宇都宮市長訪問	市長と10分間の懇談、秘書課が対応となりました。

●(行政との協働事業)

「うつのみや食育フェア2014」(11月9日)、及び「ECOテック&ライフとちぎ2014」(12月6日7日)の出展を予定しており具体化を検討しています。クイズ形式の取り組みを予定しています。

●(食と農をつなげる会)

10月7日(火)JA女性会85名、生協連91名で全体176名の参加する交流会を開催いたしました。ユリ生産者「(有)エフエフヒライデ」代表取締役の平出氏から農業者の立場から意見を発表いただき、「農業・農協改革」をテーマに日本農業新聞関東支社副支所長山田氏からこの問題についての問題点を講演いただきました。その後、14グループに分かれこの問題について深めました。今後もお互いの連携を強めて活動をしていくことが大切であるとまとめました。

●(とちぎ協働祭りの参加)

10月26日(日)、100団体が参加して開催されました。暮らし部会では栃木子育てネットワークの一員として「子育てエリア」「自然環境の工作体験」に参加しました。

3. 『組合員理事・組織活動担当職員学習会』の開催

組合員理事、組織活動担当職員を中心に、理事として身に付けることを学びます。10月は、同じ協同組合であるJAに国から求められた改革を、生協陣営としてどのようにとらえるかを学びました。

	日	テーマ	講師	参加・備考
1	9/22	「協同組合思想とその歴史」	栃木県生活協同組合連合会 竹内会長理事	参加36人
2	10/27	「今なぜJA改革なのか」	宇都宮大学 農学部 農業経済学科 秋山満教授	参加35人
3	12/1	「共有を深めるワークショップを学ぶ」	宇都宮大学 教育学部 住環境・まちづくり 研究室 陣内雄次教授	
4	12/15	「消費者市民社会について」	横浜国立大学 教育人間科学部 西村隆男教授	
5	1/20	「山谷の現状からみえてきた事 地域住民 による生活困窮者の支援」	NPO法人 自立センターふるさとの会 滝脇憲常務理事	

4. 『組員・役職員学習会』の開催

組員を対象に情勢に合わせた学習会を実施しています。

	日	テーマ	講師	参加・備考
1	7/7	いま憲法について考える ～憲法のいきづく国にするために～	伊藤塾 塾長伊藤真弁護士	参加81名 「憲法について改めて学ぶ機会になった」との感想あり。
2	7/26	TPP交渉の現状と今後の見通し ～私たちの暮らしにどう影響するのか?～	東京大学大学院農学 生命科学研究科 鈴木 木宣弘教授	参加104名 「知ることの大切さを知った。」などの感想あり。

5. 行政、他団体との協働

- 1) 恒例の報道代表者会懇談会は、12月2日(火)を予定しています。
- 2) 協同組合間交流会は、12月10日(水)を予定しています。
- 3) ユニセフハンドインハンドを例年通り11月12月の期間で、各会員が取組み中。
- 4) 新規の委員として、「農政審議会委員(2014年から2016年度)」と「農地中間管理事業評価委員(2014年度から)」を受託しました。

ネットワーク活動

1. とちぎ食の安全ネットワーク

10月の全体会は、食の安全地域フォーラムの具体化、次の学習会の計画などを検討しました。

●(食品安全フォーラム)

地区	日	テーマ	場所	参加
県央地区	10/9	放射性物質と食品の安全性について～今それぞれの立場で取り組んでいること～	県庁研修館講堂	148名
安足地区	10/23	食品工場の品質管理について～カレーのルーはどのようにつくるの～	ハウス食品(佐野市)	18名
県北地区	11/14	食品中の残留農薬と食品の安全性について	大田原市総合文化会館	

●(全体会を使った学習会)

日	テーマ	講師
5/15	輸入食品の監視体制 TPP 参加で大丈夫か	宇都宮大学 宇田靖名誉教授
9/25	動物医薬品と食の安全性に関わるセミナー 「動物医薬品の安全性確保について」 「県における動物医薬品の適正使用の啓発・指導の状況について」	内閣府食品安全委員会事務局関口秀人課長補佐 栃木県農政部畜産振興課小松亜弥子主査
12/11	ハセップ(HACCP)学習会	未定
3/19	食品表示について(仮称)	未定

2. とちぎ消費者ネットワーク

10月28日全体会では、「地方消費者グループ・フォーラム」の具体化、消費者カレッジの状況などについて話し合いました。

●(地方消費者グループ・フォーラム関東ブロック開催準備)

消費者問題の活動をしている団体を中心に交流する消費者庁提案の交流会「1地方消費者グループ・フォーラム」の関東ブロック開催(2015年2月19日、栃木県総合文化センター、270名規模)をとちぎ消費者ネットワークで担います。全国のキックオフ集会在8月28日に東京で開催され、それを受けて9月4日、9月30日、10月28日と栃木実行委員会を開催しました。テーマ・参加団体・会場などの案を決め、関東ブロックの会議に提案する予定です。

●(とちぎ消費者カレッジ計画)

「若者(主に大学生)を対象にした消費者被害防止の啓発委託事業」を栃木県から受託し、大学、専門学

¹ 地方消費者グループ・フォーラムとは、消費者庁の呼びかけによる消費生活に関する問題に携わる各地域の団体・グループと、行政を含めた多様な主体間で連携を図り、各分野で諸課題に取り組むために、全国ブロック毎に設けられた情報交換及び意見交換等をする「交流の場」。平成23年から5回目の開催となる。

校で、啓発授業を実施する事業です。今年度は5校を予定しています。

大学	日時	テーマ	講師・内容	参加
●宇都宮共和大学子ども生活部	9/29(月)14:45-	・若者の消費者問題を考えてみましょう「相談の現場から伝えたいこと」	白土 SN 副理事長	39人
●作新学院大学女子短期大学部	10/20(月)14:40-	・二十歳の責任「消費者被害を受けない、与えない」	服部弁護士	133人
●宇都宮大学	11/12(水)16:10-	・契約の意味と消費者被害の実態	山口弁護士 岡田 SN 理事	
●栃木農業大学校	11/27(木)13:10-	・若者の消費者トラブル 現状と対応	山田 SN 理事	
●国学院大学栃木短期大学	12/3(水)14:30-	・消費者トラブルに遭わない為に	山田 SN 理事	

※SN=NPO法人とちぎ消費生活サポートネットの略

●（全体会を使った学習会）

毎回全体会では学習会を実施しています。

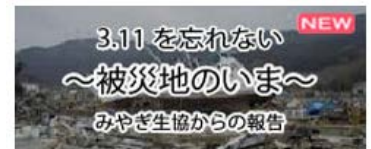
日	テーマ	講師
5/27	消費者問題はなぜおこる	山田幹事
7/22	消費者市民社会における栃木県内のパブリックコメント制度を検証する	高岡幹事 服部幹事
10/28	適格消費者団体について	葛谷幹事
1/27	未定	杉原代表
3/24	未定	

3. 福祉ネットワーク 10月の定例会はありませんでしたが、介護保険の改正に伴う「市長訪問活動」には幹事メンバーが参加しました。

震災支援活動

- みやぎ生協から発信される「3.11を忘れない 被災地のいま」をホームページで連続掲載

10月で連続14回となりました。



- 被災者生活再建支援制度の拡充を求める請願署名の実施

会員名	筆数	備考
足尾銅山生活協同組合三養会	5筆	群馬県連の提案で実施済み、筆数は群馬県連で計上し実績
よつ葉生活協同組合	953筆	
栃木県職員生活協同組合	20筆	

(2014年11月10日集約時)

- お茶会の実施

ふれあいお茶会 行政、NPO法人ウィズ、県連会員などの協力のもと、社会福祉法人ふれあいコープ特養みどりの地域交流室を使って開催する福島からの避難者を対象にしたふれあいお茶会を定例で実施しています。(目的：①参加者同士をつなげる場、②参加者の想っていること困りごとを受けとめつなげる場、③おしゃべりを楽しんでいただく場：基本は毎月第三火曜日開催)

いわき市四倉仮設住宅お茶会 県連会員の協力のもといわき市四倉仮設住宅に暮らす避難者の方を対象にしたお茶会を実施しています。(目的：ふれあいお茶会と同様・基本は毎月第二土曜日開催)

ふれあいお茶会	いわき市四倉仮設住宅お茶会
10月21日(火)10時-12時 ●参加者16名 ●スタッフ9名(・行政1名・くらし応援会2名・ウィズ1名・生協連5名) 南相馬市の方2名の参加があらたにあり、にぎやかなおしゃべりとなりました。 おもてなしの料理は、10月の会ということで、「芋煮」を避難者の方も一緒に、スタッフの理事の皆様とつくっていらっしやいました。吉田会長によると、福島での「芋煮」は、10月10日の体育の日に運動会を終えた後、川原で「芋煮」を行うのが一般的となっていて、ときにお父さん方は鮎つり	10月18日(土) ●参加者11名 ●スタッフ9名(とちぎコープ6名・生協連3名) 手芸は、「ミニ生け花」づくりを行い「お部屋が明るくなる」と好評でした。中には、「今までつくった作品で棚が一杯になって、飾る場所がない」という嬉しい声も聞かれました。 食事は、おにぎり、煮物、トン汁、梨、ブドウなどが用意され、トン汁は、「一人暮らしだと、なかなかつからない」と大変喜ばれました。

をしながら、回りの家族でわいわい芋煮やバーベキューをやっていたものです、とのお話を伺いました。その「芋煮」の最終の味付けは避難者の方にしていただきました。そのほか「大根葉としらすおにぎり」「きのこ野菜の和え物」「お漬物」デザートに「柿」「梨」「りんご」、避難者の方にお持ちいただきました。

今回の手芸はマグネットの着いた 100 円玉大の亚克力に、花柄やサンタ柄などのペーパーを切り抜いて貼り付ける「バッチ」づくりをしました。それぞれ個性的なものを楽しそうに作られていました。

おしゃべりの場、お料理作りの場、手芸の場と楽しそうにしていた避難者の方々の笑顔が印象的な会でした。

会話では、「震災後食事の嗜好が変わってしまった話」や「仮設住宅を離れ、別な所で暮らすようになると人と話す機会がなくなってしまう」という不安の声も聞かれました。

男性陣は、避難者の方の自宅に伺い「松の手入れの仕方」を聞いたり、ジャンボゆずを取ったりと楽しみました。また、事前に採った「自然薯」をいただきました。

仮設での暮らしから、普段の暮らしに戻る準備が進む中で、新たな不安を感じている様子が伺えました。そのような中で、我々が訪問することを楽しみにしていただけているようでした。今回参加できなかった方から「じゃがいも」の差し入れもあり、感謝のうちに帰宅となりました。

以上